談

話

室

アカデミック人材のキャリアデザイン —男女共同参画・若手支援シンポジウム報告—

佐藤竜馬^{1,2}, 根岸瑠美^{1,3}, 筒井香織⁴, 中井孝尚^{1,5}

¹平成27・28年度生物物理学会男女共同参画若手支援委員

²筑波大学計算科学研究センター ³東京大学分子細胞生物学研究所

⁴Tokyo Ph.D. Lounge ⁵株式会社カネカ

男女共同参画若手支援委員会（男女若手委）にて毎年企画している年会時のシンポジウムが、2016年のつくば年会で第14回を迎えました。第13回シンポジウム「ポストドク問題って言わないで！—任期付き雇用問題の解決を目指して—」では、参加者の多くがアカデミック業界の不安定な雇用制度を問題視しており、任期付きで雇用されている方々が異動先を探すことや将来に対して強く不安を抱えていることがわかりました（生物物理 56(2), 126-127 (2016)）。参加者のみなさんが雇用の問題やキャリア形成に高い関心をお持ちであることを受けて、今回のシンポジウムではテーマを「キャリアデザイン」と設定しました。特に、長年アカデミックポストに就かれている研究者のみなさんや、企業への就職を全く検討したことのない方々にも、キャリアデザインの重要性をぜひ知っていただきたいと考え、キャリアデザインの第一歩となる「自己分析」を体験する企画を準備しました。本稿の前半ではシンポジウムの開催報告を、また後半はシンポジウムに参加されなかった方にキャリアデザインの重要性を理解いただく目的で、本シンポジウムの監修者である筒井香織さんへのインタビューを掲載しました。

シンポジウム開催報告（佐藤）

大学院修了後の進路

これまで博士課程修了後の進路としてはアカデミックポストに就き、研究を続けるというのが主でした。しかし大学院重点化政策以後、任期なしのポストの数に比べて博士後期課程修了者の人数が大幅に増えた結果、任期なしのポストに就くことが困難になっている

第14回男女共同参画若手支援委員会シンポジウム

表題: キャリアデザインの第一歩

～大学院生・研究者のための自己分析ワーク～

日時: 2016年11月25日（金）11:45-12:35

内容: 話題提供（中井孝尚）

自己分析ワークショップ（根岸瑠美, 筒井香織）

のが現状です。こうした問題に対し文部科学省は、卓越研究員事業などの新しい施策を打ち出し解決を試みっていますが、ポストドクや任期付き研究員全員の雇用を確保することは難しく、問題の完全な解決にはまだ時間がかかりそうです。一方で、社会環境も変化し、大学院修了後の働き方に多様性が生まれ、民間企業への就職者も増え始めました。大学院修了後にアカデミックポストで研究を続けるか、民間企業に就職し新たな仕事にチャレンジするかなど、各自が自身のキャリアを早い段階から検討しておくことが大変重要です。そこで、本シンポジウムでは、参加者に「そもそも自分は何を目指し、何を大切にしたいのか」を明確に意識いただくことを狙い、自己分析ワークを行いました。

キャリアデザインにおける自己分析の有用性

本ワークショップの参加者は56名で、その内訳は学生40%、ポストドク・研究員23%、助教・講師16%、准教授・教授16%、その他5%でした。ワークではTokyo Ph.D. Lounge（TPL）と男女若手委にて準備した自己分析を行った後に、参加者同士でランダムにペアを作り、各自の自己分析結果に対して相互にコメントを出し合いました。予定時間が大変短く感じられるほど、活発な議論がなされました。

Importance of Early Career Designing—Report on “the Symposium of Promoting Gender Equality and for Encouraging Young Researchers”—

Ryuma SATO^{1,2}, Lumi NEGISHI^{1,3}, Kaori TSUTSUI⁴ and Takahisa NAKAI^{1,5}

¹Committee for promoting gender equality and encouraging young researchers

²Center for Computational Sciences, University of Tsukuba ³The Institute of Molecular and Cellular Biosciences (IMCB), The University of Tokyo

⁴Tokyo Ph.D. Lounge ⁵KANEKA CORPORATION

本ワークに対して、参加者アンケートの結果では「普段考えないことを考えることができ良い機会になった」、「自分では気づかなかった自分の良さを知ることができた」など、自己分析自体は概ね好評でした。一方で、時間が短く消化不良だったという意見も多くいただきました。これらの意見から、参加者が真剣に自己分析に取り組んでいたことを伺い知ることができ、新たな自分を発見するために自己分析は有用であることが再認識できました。また、若手研究者に混ざってPIなどのベテラン研究者が自己分析に悪戦苦闘する姿も印象的でした。研究室主宰者の方々には、ぜひ学生や若手研究者に自己分析を勧めていただき、今後のキャリアについて一緒に考えるなど、人材育成の視点でもうまく活用していただければありがたいと思いました。

筒井香織さんインタビュー
戦略なきポストのループにはまらないために(根岸)

将来のキャリアに迷いを感じたら、まずは自己分析を

今回のシンポジウムは、大学院生や研究者のためのキャリアデザイン支援団体であるTPLの監修のもと、企画いたしました。TPL代表の筒井香織さんは生物物理学会出身の元研究者ですが、産業カウンセラーの資格を取得し、現在は大学でのキャリア教育や就職支援に携わっています。ご自身のキャリアチェンジの経験を踏まえ、「後悔のない人生設計のためには、自分の将来を早期に想像し、キャリア形成の準備を計画的に進めることが重要」と筒井さんは言います。そこで本稿の後半では、理系人材のキャリア支援を通じて筒井さんが感じた、アカデミック人材特有の問題点とその解決策についてお話を伺いました。

—まず、TPLの活動について教えてください。

「キャリアデザインを支援するセミナー『博士キャリア座談会』を開催しています。また、自己分析などの結果を元に、個別にキャリア相談も行っています。」

—『ポストク問題』という単語はとても有名になりましたが、やはりTPLの座談会に参加する方々は、アカデミック業界から脱却したいと考える人が多いですか？

「『企業に転職したい』『ポストクをやめたい』という強い意志を持ってTPLにいらっしゃる方は、実はそんなに多くありません。そういう方々はご自身の力で解決されることが多いです。むしろ、何となく

く将来に不安がある方、アカデミックでのキャリアに迷いがある方、そういう方々に対して、自分自身にとっての理想の将来像や目標を明確にして、それに向かうためのお手伝いをするのが私たちの役割です。」

—なるほど、そのための『自己分析』というわけですね。キャリア相談にあたって、自己分析の結果で特に重視するのはこういった部分でしょうか？

「もちろん自己分析の結果を総合的に判断することが前提ですが、傾向としては、『人と接することが好き』『自分の手がけた製品を世の中に送り出した』というような、社会との関わりを重視する方は企業で働くことが向いていると思います。また、明確な成果や評価を重視する方も企業向きかもしれません。一方で、『〇〇を解明したい』というように、やりたいことの予先が自分自身に向いているような場合はアカデミックポストに向いているケースが多いと思われます。ですが、自己分析の真の目的は、自分の考えをどんどん掘り下げて、『具体的に何をしたいか？』『何を重視したいか？』といった内面の部分に自分自身で気付いてもらうことにありますので、こちらから意図的に誘導するようなことはしません。」

安易に目先のポストに飛びついてはいけない

—アカデミックポストから企業へのキャリアチェンジを成功させるためのアドバイスがあればお願いします。

「もし、アカデミックでのキャリアに少しでも不安や不満があるなら、早めに決断した方がいいと思います。転職には『35歳の壁』という言葉があり、35歳を超えると転職が難しくなる傾向があります。これは、受入れ先からマネジメント経験を要求されるなど、ハードルが上がるケースが多くなるからです。もちろん、35歳を過ぎると可能性が全くなくなるわけではありませんが、企業での勤務経験のない方が企業へ転職できるのは30代前半くらいまでと考えておいた方が無難です。」

—30代前半というと、最初のポストクの任期が終了するくらいですね。

「そうです。アカデミック業界は役職が上がるほどポストが減少します。ポストクや特任のような任期付きのポストは比較的多いかもしれませんが、その先の正規のポストは少なくなります。ですので、安易な気持ちで何となく目先のポストに飛びつくこと

はおすすめでできません。特に、バイオ系や地球科学系では新卒でも企業への就職は容易ではない状況です。将来の転職を考えている方には、『結論を先延ばしにしない』と強くお伝えしたいです。」

研究以外の武器を身に付けてキャリアアップ！

一耳の痛いご指摘ですが、それこそが『ポストドク問題』の本質かもしれませんね。実際、ポストドクを長く続けてしまうと、企業への転職だけではなくアカデミックでも正規ポストの獲得は難しくなりますし。では、ポストドクからのキャリアチェンジを成功させるには、具体的にどうしたらいいとお考えですか？

「研究以外の武器を身に付けて、他の博士や同年代の会社員との差別化をはかることが重要です。企業との共同研究の経験があれば即戦力として考慮してもらえる場合があります。また、資格を取ることも差別化に有利です。例えば、弁理士や特許関連の資格は理系の研究者と親和性が高いです。研究現場や特定の専門分野を理解している人は、特許関連の業務で重宝されます。中小企業診断士もおすすめで。この資格はあらゆる業務を行う上で強力な武器になります。ただし、簡単に取得できるものではありませんので、ある程度腰を据えて計画的に準備を進める必要があります。ほかにキャリアチェンジの手段としては、独立・起業もあります。自分のやりたいこと、ビジネスとしての展開がはっきりイメージできている方には向いているのではないのでしょうか。もちろん、ビジネスを成功させるための具体的な戦略と準備は必要です。」

一博士号取得者の能力として高い英語力も挙げられると思います。ポストドクの期間中に英語を極める、というのはいかがでしょうか？

「転職活動において、もちろん高い英語力があることは望ましいですが、他の博士との差別化という観点では弱いかもしれません。」

一何でもいいわけではないのですね。

「そうですね。キャリアチェンジ後の仕事にどう役立つか明確なストーリーを描けて、更に他の人と差別化できるような資格・能力が好ましいです。」

一筒井さんも32歳のときにポストドクから就職支援を行う民間企業へキャリアチェンジなさいましたね。その時にアピールしたポイントを教えてください。

「私はポストドク時代、サイエンスコミュニケーション

に強い関心があり、その関連活動やコンテストに参加していました。また、科学番組の制作にも携わりたいと考えていたので、シナリオライティングの勉強もしました。これらは実は転職先の企業の業務には直接関わりのないことでしたが、こうした活動を通して身に付けた能力が業務にどのように役立つか、しっかりアピールしました。そのことが採用担当者に好意的に受け取られたようです。」

一キャリアチェンジを成功させるためには、研究だけでなく、研究以外のことにも力を入れて準備をしておくことが重要だということですか？

「はい。もちろん研究は頑張る。さらに、他の分野でも頑張って自分の武器を身に付ける。これが他の博士や会社員との差別化に効果的です。大変な道に思えるかもしれませんが、努力家の博士の皆さんなら大丈夫だと信じています。」

一転職で有利になるためにいろいろと頑張ってきました、という動機は採用担当者に不純だと受け取られないでしょうか？

「自分のやりたいこと、人生の目標や大切にしたいことをTPLでは『自分の軸』と呼んでいます。この軸、中でも特に人生の目標が明確になっていれば、キャリア形成の過程で得た専門知識や技術、資格、能力は全て、その目標を達成するための手段ということになります。転職という短いスパンではなく、人生という長いスパンで考えていただけたらと思います。」

一だからこそ、早期の自己分析とキャリアデザインが重要だということですね。ありがとうございました。

「博士の強みとは？」という疑問に対して、いつも私は端的に回答できずにいました。しかし今回の企画を通じて、「博士」と一括りにしてもその能力は多様であることから、そもそも「博士の強み」は一般化できないものなのだと気づきました。同様に技能だけでなく、価値観や優先順位、ライフイベントも人によって異なります。博士号を取得したからといって、必ず研究者としてPIを目指さなくてはならないわけではありません。まずは、私たち自身が博士のステレオタイプから脱却し、アカデミック業界だけでなく多種多様な場面で活躍することが、未来の博士のキャリアを広げる結果につながるのではないのでしょうか。

佐藤竜馬

佐藤竜馬（さとう りゅうま）

筑波大学計算科学研究センター研究員

2015年6月名古屋大学大学院理学研究科

博士（理学）。15年より現職。

研究内容:有機分子の光誘起電子移動反応の理論的研究

連絡先:〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

E-mail: rsato@ccs.tsukuba.ac.jp

根岸瑠美

根岸瑠美（ねぎし るみ）

東京大学分子細胞生物学研究所特任助教

2009年3月名古屋大学大学院工学研究科単位取得退学，博士（工学）。09-13年東京工業大学生命理工学研究科研究生，13年東京大学分子細胞生物学研究所博士研究員を経て14年4月より現職。

研究内容:プロテオミクス，造腫瘍性に関わる染色体の高次構造解析

連絡先:〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

E-mail: Inegishi@iam.u-tokyo.ac.jp

筒井香織（つつい かおり）

東京 YKT コンサルティング代表

Tokyo Ph.D. Lounge (TPL) 代表

2008年3月大阪大学大学院理学研究科，博士（理学）

ポスドクを経て，12年民間の就職支援企業へ入社。営業，広報，セミナー講師など様々な業務を担当。16年同社を退職後，独立し，大学のキャリア教育，中小企業の支援等に携わる。

TPLの活動は2012年からスタート。博士キャリア座談会の企画・運営の他，キャリア相談を実施中。

E-mail: tpldoctor@gmail.com

中井孝尚

中井孝尚（なかい たかひさ）

株式会社カネカ バイオテクノロジー開発研究所長

1986年鐘淵化学工業（株）入社，86-92年蛋白質工学研究所研究員（出向休職），94年大阪大学大学院理学研究科博士（理学）取得。92年復職，主に研究開発部門に勤務，2013年より現職。

研究内容:バイオテクノロジーによる有用物質生産研究

連絡先:〒676-8688 兵庫県高砂市高砂町宮前町 1-8

E-mail: Takahisa.Nakai@kaneka.co.jp